

池の沢ガイド

2012.05.04

池の沢に蛍を増やす会

新編武蔵風土記稿（1804年～）

「殿入八日影田中ノ西ニアリ此奥ノ方ニ池ノ澤ト云所アリ ソコニワ釜トヨフ池アリテ ワツカナル池ナレト ソノ深キホトラシル人ナシト イヒツタハリ」此の湿地は今でも足を踏み入れたら、抜け出すのに苦労する。今はカサスゲが生い茂っている。

池の沢の地勢

多摩丘陵の西南、京王高尾線はざま駅南 1.5 km に位置し、面積約 50,000m² (内東京都館町緑地保全地域 24,000m²、八王子市殿入中央公園 10,000m²) で北北西に開かれた谷戸。

標高約：165m～200m、低地には沢、カサスゲが生い茂る湿地、水田放棄地がある。

池の沢の生態

周囲をめぐる丘陵部はコナラ、クヌギ、イヌシデ、一部がスギ、ヒノキ、ハリエンジュの人工林を含む典型的な二次林であるが人手放棄により全て一面、笹丈 3m を超すアズマネザサに覆われていた。これまでの調査で、植物が 592 種、昆虫類が 368 種を確認。その他、爬虫類、両生類、鳥類、哺乳類など豊富。

池の沢のホタル

ゲンジボタル、ヘイケボタル、スジグロベニボタル、ムネクリイロボタル、オバボタル、カタモンミナミボタル、クロマドボタル の 7 種

池の沢に蛍を増やす会

発足（2000年） 会長 諏訪部五郎、 現在会員数は53名、60代の男性が多い。
事務局 谷村伸一 電話 042-661-7197

池の沢の活動

活動の目的は「生き物を育む里山づくり」。8年間かかってアズマネザサを刈り取り、地面に光が届くようになった。定例作業日は毎月延べ4日間。活動は下草刈り、間伐、植林、苗木の育成、流水路の整備、散策路の整備、動植物の調査、自然体験・観察会の開催

甦ってきた植物

地面に光が届くようになり、30年近くも地中に眠っていた貴重な植物が芽を出してきた。キンラン、ギンラン、エビネ、サワギキョウ、ヤマユリ、ミズオトギリ、ミズニラ、アギナシ、オオニガナ、トンボソウ、ヤブムグラ、ヘラオモダカ、



池の沢入口から南方を望む



カサスゲが茂る奥の湿地



ゲンジボタル



スジグロベニホタル



ヤマユリ



ミズオトギリ



マヤラン



キンラン



アギナシ